

発掘現場から⑩

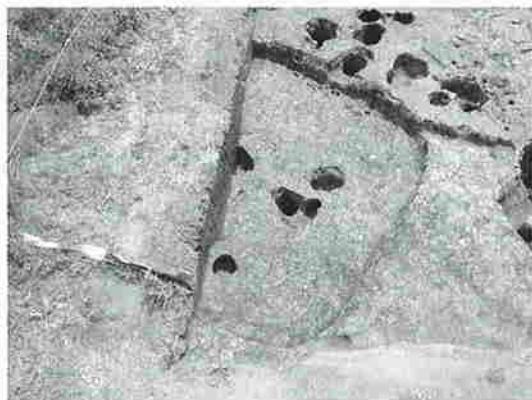
「今年度も調査が始まりました！」

平成19年度中の供用開始を目指して、山陰自動車道の整備も大詰めを迎えてます。鳥取県埋蔵文化財センターでは、工事地内の遺跡について発掘調査を進めていますが、今年度も4月から調査を開始しました。

道路の建設工事に伴って失われる遺跡の調査は、地元大山町の歴史を明らかにし、報告書に記録することによって後世に永く伝えることを目的としています。また、出土品は出前講座や展示など様々な活用ができるよう、大切に保存しています。

今年度は、昨年度からの引き続いて2つの遺跡を調査しています。

【門前上屋敷遺跡】
この遺跡では、縄文時代の落



門前上屋敷遺跡　弥生時代竪穴住居

とし穴、弥生時代の竪穴住居、中世（鎌倉・室町時代）の掘立柱建物・土坑（大型の穴）などが見つかっています。遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、漆器、ガラス玉などがあります。

これまでの調査から、縄文時代は狩猟場、弥生時代では集落、

とし穴、弥生時代の竪穴住居、中世（鎌倉・室町時代）の掘立柱建物・土坑（大型の穴）などが見つかっています。遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、漆器、ガラス玉などがあります。

これまでの調査から、縄文時代は狩猟場、弥生時代では集落、

中世から近世（江戸時代）にかけては、館跡の一部や集落が見つかっています。特に、この遺跡の南西側で、中世頃の大規模な造成の跡が見つかり、また隣接する門前鎮守山城跡では、出土した遺物に寺院の存在を思わせる墨書き土器（墨で文字が書かれた土器）が出土しています。集落内に大規模な寺院があつた可能性がうかがわれます。

今年度は、大規模な造成土の下層の調査によつて、新たな発見があるものと期待されます。

【茶畠六反田遺跡】

この遺跡ではこれまでに、耕作痕、溝、土坑、ピット（小さい穴・柱穴）などが見つかっています。また、昔の道の跡ではないかと考えられるものや、杭

を列状に立てて柵を作っていたのではないかと考えられるものも見つかっています。

今年度は、昨年度からの引き続いて2つの遺跡を調査しています。

【門前上屋敷遺跡】
この遺跡では、縄文時代の落



茶畠六反田遺跡　弥生時代遺構完掘状況

代では集落、13世紀代にも集落が営まれ、その後は耕作地として利用されたことが明らかになります。

今年度の調査で、各時代の営みの様子がさらにはつきりしてくるのではないかと期待されます。

このように、新しくできる道

路の下には、二千年以上も前から私たちの祖先の営みの跡が眠っているのです。今後も調査の様子をお知らせしていく予定です。お楽しみに。